

# 令和5年度 第2回千葉市立博物館協議会

日時 令和6年3月15日（金）

14:00～15:30

場所 千葉市立郷土博物館 講座室

## 次 第

1 開 会

2 部 長 挨 拶

3 議 題

(1) 令和6年度の予算（案）と事業予定について

(2) 郷土博物館の展示リニューアルについて

(3) その他

4 閉 会

### 3 議題

(1) 令和6年度の予算(案)と事業予定について

→次ページから

(2) 郷土博物館の展示リニューアルについて

→別紙

(3) その他

議題1 令和6年度予算（案）と事業予定について

加曽利貝塚博物館

	事業内容	実施期間	説明
(1) 維持管理事業	ア 維持管理事業	通 年	加曽利貝塚博物館施設の管理業務委託を実施。 ①警備委託 ②清掃委託 ③草刈業務委託 ④設備関係保守委託他
	イ 設備改修事業	通 年	設備の改修を実施。 ① 非常照明等設置修繕他
	当初予算額	35,792千円	(42,613千円) ※( )はR5予算額以下同じ
(2) 資料収集保管事業	ア 資料の収集	通 年	寄贈・寄託資料の受け入れを行う。 考古学に関する専門図書の購入。
	イ 資料の整理保管	通 年	収蔵資料の再整理作業、デジタル化を行う。 また、他の博物館等の求めに応じて、資料や写真の貸出を行う。
	当初予算額	87千円	(92千円)
(3) 調査研究事業	ア 縄文文化調査研究	通 年	収蔵資料や展示、教育普及に関する調査研究を行う。
	イ 『博物館紀要』の発行	通 年	『博物館紀要』第51号の発行 ※デジタルデータとして公開予定
	当初予算額	123千円	(401千円)
(4) 展示事業	ア 常設展	通 年	「加曽利貝塚から縄文時代の貝塚をみる」 常設展示①「貝塚を知る」 常設展示②「発掘された加曽利貝塚」 常設展示③「加曽利貝塚の歴史」
	イ 企画展	(3/19)～6/30 4/2～7/28 7/17～9/16 10/8～3/2 3/18～(5/11)	特別史跡加曽利貝塚令和5年度発掘速報展 発掘100周年記念パネル展 夏の企画展（博物館連携展示）※市原市 あれもE これもEー加曽利E式土器（総括編）ー 特別史跡加曽利貝塚令和6年度発掘速報展
	当初予算額	726千円	(701千円)
(5) 教育普及	ア 縄文ひろば	毎月第2・第4日曜日	史跡内見学案内、火おこし体験、アングイン編み、貝のアクセサリーづくり、紙芝居などを実施。※学校見学集中期間・夏休み中・年末年始は開催しない予定。 計17回実施予定

イ	縄文春まつり  縄文秋まつり	5月3～5日  11月2・3日	縄文時代の暮らしなどについての体験や学びなどを通して市民に楽しんでもらう集客イベント。 土偶ペーパークラフト・組ひもづくりなどの体験学習をはじめ、学芸員による解説、物販などを行う。
ウ	自然観察ワーク ショプ	5月25日 2月8日	加曽利貝塚周辺に生息している動植物の特徴や生態などについて学ぶワークショップ。 対象：小3以上 定員：各回30人 事前募集
エ	夏休み縄文 ウィーク	8月14～17 日	縄文時代の暮らしなどについての体験や学びなどを通して親子で楽しんでもらえるイベント。 土偶ペーパークラフト・組ひもづくりなどの体験学習ほかの夏休みを家族で縄文を学べる内容を予定。
オ	博物館連携講座	8月31日	博物館連携事業である夏の企画展にあわせた内容の一般向けの講座。 対象：一般 定員：200人 当日先着 会場：生涯学習センター 2階ホール
カ	考古学講座	11月23・24 日	考古学の新たな研究法を模索するため、考古学の研究者を招き、博物館学芸員と共に講義を行う。研究者・上級者向けの講座。今年度は、企画展「あれも E これも E」総括編・発掘調査100周年イベントに合わせた内容を予定 対象：一般 定員：200人 当日先着 会場：生涯学習センター 2階ホール
キ	縄文時代研究講座	1月18日 1月25日 2月15日 2月22日 3月8日 3月15日	縄文時代をテーマにした一般向けの計6回の講義。 対象：一般 定員：各回40人 事前募集 会場：生涯学習センター 地下小ホール
ク	加曽利ウォーク	3月22日	市内の文化財や遺跡を徒歩で巡る。 ※若葉区にて実施予定 対象：小5以上 ※小学生は保護者同伴 定員：15人 事前募集
ケ	職場体験の受入れ	通 年	市内外の中学校等からの要望を受け、職場体験の機会を提供する。
コ	講師派遣	通 年	一般団体・組織・施設などからの要請に応じて学芸員を講師として派遣する。
サ	体験プログラム	日・祝及び 最終週の土	来館者向けに子どもから大人まで楽しめる体験（R5年度：発掘体験・縄文ゲーム塾）を実施。（委託事業）
シ	博物館実習の 受入れ	7月25日～ 8月2日	学芸員資格取得課程履修学生の館務実習の受入れ。 資料の整理、資料の取り扱い方、展示資料の作成や

			展示作業などを行う。
	ス 博物館ボランティアの育成・活用	通 年	博物館の業務を支えるボランティアを育成し、博物館活動の充実を図る。挿入 募集：4月 基礎研修：6月（全6回※3日間） 専門研修：5月22日～26日（全5回）
	当初予算額	19,868千円	(19,942千円)
(6) そ の 他	ア 日本博物館協会	日程未定	全国博物館長会議（未定）
	イ 千葉県博物館協会	日程未定	総会（未定）
	ウ 縄文シティミット		北海道洞爺湖町（予定）
	当初予算額	185千円	(45千円)
	合計 予算額	56,781千円	(63,794千円)

### 特別史跡加曾利貝塚 新博物館の整備（文化財課）

事業者（コンソーシアム）を選定するため、令和5年6月に下記の入札公告を行ったものの、参加事業者ゼロのため中止した。新博物館整備には展示室の設計施工が伴う。考古歴史系の展示ノウハウを持つ大手の事業者は3者程度で、これらの事業者を核としたコンソーシアムが応札するものと想定していた。しかし設備工事費を中心に建設費が高騰し、すべてのコンソーシアムが予定価格内の応札不可と判断して参加を見送ったことが、中止の原因である。

建設費が上昇を続ける中で適切な予定価格を見極めるのは難しい。またコンソーシアム側も、リスク回避のため建設費を過剰に見積もる傾向がある。

よって、令和6年度当初予算でのDBO事業関連費の要求は見送ることとした。この影響で開館予定は令和10年度から遅れるが、建設費の安定が認められれば速やかにリスタートできるよう、社会経済情勢を注視していく。

#### 令和5年6月の入札公告（概要）

縄文文化の研究とその成果を市民等に発信する拠点とするため、史跡のガイダンス機能等を備えた新たな博物館の整備を進める。

当初予算額 8,678,000千円 ※債務負担行為（期間：令和6年度～令和20年度）

事業期間 設計建設及び開館準備 令和6年度～令和10年度上期  
維持管理及び運営 令和10年度下期～令和20年度

開館時期 令和10年秋

施設規模 敷地面積 18,967㎡

延床面積 4,980㎡（想定）

郷土博物館

	事業内容	実施期間	説明
(1) 維持管理事業	ア 維持管理事業	通 年	郷土博物館施設の管理業務委託の実施 ①警備委託 ②清掃委託 ③エレベーター等設備関係 保守委託他
	イ 展示リニューアル 改修	通 年	展示リニューアル業務委託 改修期間：令和6年下半期～令和7年上半期 ※改修期間中は休館
	ウ 館内の修繕工事	通 年	・トイレ改修 ・照明設備更新実施設計 ・本館昇降設備工事（保全予算一元化対象事業）
	当初予算額 184,503千円 (63,219千円) ※（ ）はR5予算額以下同じ		
(2) 資料収集 保管事業	ア 資料の収集	通 年	寄贈・寄託等により、展示・研究等に必要な資料の収集を行う。
	イ 資料補修・模型 資料製作	通 年	展示リニューアルで展示予定の在来馬の模型製作、給食レプリカの購入、館蔵絵画資料の補修を行う。
	ウ 資料の整理保管	通 年	収蔵資料の再整理作業を行う。カードの再確認、資料のデジタル化を行う。 また、他の博物館等の求めに応じて、資料や写真の貸出を行う。
	エ 新規収蔵資料燻蒸	12 月	新たに寄贈、寄託等を受けた資料の燻蒸を行う。
	オ 収蔵庫・展示室 等環境調査	10月、2月	博物館内の有害虫の有無、浮遊菌類の採取、空気汚染 温湿度、照度などの測定を行い、資料保全上特に問題となる要素を把握する。
	当初予算額 7,514千円 (3,264千円)		
(3) 調査 研究 事業	ア 館内調査研究	通 年	収蔵資料や展示、教育普及に関する調査研究を行う。
	イ 千葉市民俗資料 調査	通 年	高度経済成長期以前の千葉市における生活の様子を聞き取り調査や民俗資料を収集することによって記録・保存する。
	ウ 千葉氏関係資料 調査	通 年	各地に残されている千葉氏に関する資料や情報を収集調査し、『千葉氏関係史料集』の編集を行う。
	エ 『研究紀要』の 発行	3 月	『研究紀要』第31号の発行 800部
	当初予算額 3,425千円 (2,144千円)		

(4) 展 示 事 業	ア 常設展 (展示リニューアルのため下半期は休館)	上 半 期	千葉市に関わる歴史資料の展示 1階 歴史年表、千葉市域の城郭遺跡、季節の展示や民俗に関するミニ展示など。 2階 所蔵資料にみる日本の武器・武具 天文資料コーナー 3階 千葉氏の興亡と妙見信仰 4階 近現代の千葉 5階 展望室 (パネル展示など)
	イ 企画展	5月～9月	千葉氏関係パネル展「水と関わる千葉氏」(仮称)
	当初予算額 575千円 (1,683千円)		
(5) 教 育 普 及 事 業	ア 体験学習 (上半期のみ)	毎月第3土曜日	中世の鎧や直垂、桂、小袖、近世の袴(いずれも複製)などを着用し、衣装の歴史と当時の生活について学ぶ ※現在、鎧の試着体験として実施
	イ 出前授業、館内学習	通 年	エドゥケーターの指導により、出前授業や館内学習を行う。
	ウ 火縄銃演武	8月18日	火縄銃の実射(空砲)を行う。銃の現物資料や鉄砲隊の装束、撃ち方などを間近で見学し、歴史理解を深める。
	エ 千葉氏関係講座	6月29日、12月	千葉氏の歴史に関する市民向けの講座を実施する。 12月は千葉大学との共同開催。
	オ まんが「千葉常胤公ものがたり」の増刷	6 月	まんが「千葉常胤公ものがたり」を印刷し、市内の学校へ配布する。(市内全小学校6年生向け)
	カ 職場体験の受入れ (上半期のみ)	通 年	市内の中学校からの要望に対応し、職場体験の機会を提供する。
	キ 博物館実習の受け入れ	8月中旬	学芸員課程履修の学生の実習を受け入れる。 資料の整理、資料の取り扱い、講座運営の補助、展示資料の作成や展示作業などを行う。
	ク 博物館ボランティアの育成・活用	通 年	博物館の業務を支えるボランティアを育成し、博物館活動の充実を図る。
	当初予算額 3,566千円 (4,682千円)		

(6) 市史編さん事業	ア 市史編さん資料調査	通 年	千葉市域に係る歴史資料の調査を行う。 ①千葉市域関係史料 ②『史料編 近現代』関係資料
	イ 史料編の編集	通 年	『千葉市史 史料編 近現代』第3巻目(戦後～)の編集作業を行う。
	ウ 千葉市史研究講座	10月12日 10月19日	「千葉市史」等をもとに、市域の歴史的事柄を取り上げて史料に基づく歴史を平易に解説する。 対 象：市民(定員未定)
	エ 初級古文書講座	7月～8月 年6回	古文書の解説を通じて、江戸時代の郷土を理解する。 対 象：市民(定員午前・午後とも未定) テーマ：江戸時代の村の史料を読む
	オ 中級古文書講座	6月～7月 年6回	初級古文書講座に比べ、より高度な理解力と、文章把握能力を身につける。 テーマ：江戸時代の村の史料を読む 全6回
	カ ニューズレターの発行	9月、3月 年2回	ニューズレター「千葉市史編さんだより」の発行 千葉市史編さんの状況を紹介するため発行。現在の事業内容、講座案内、資料紹介などを掲載する。
	キ 『千葉いまむかし』の発行	3 月	『千葉いまむかし』38号の発行 千葉市域や関連地域に関する論文、史料の紹介、市史編さん事業の記録などを掲載する。
当初予算額 3, 837千円 (6, 894千円)			
(7) 協議会その他	ア 千葉市立博物館協議会	8月、3月頃	2回開催予定
	イ 千葉県博物館協会	5月	総会(千葉県立中央博物館)
	ウ 関東博物館協会	日程未定	総会(会場未定)
	エ 日本博物館協会	日程未定 日程未定	全国博物館長会議(会場未定) 全国博物館大会(会場未定)
	オ 全国歴史民俗系博物館協議会	日程未定	年次集会
当初予算額 138千円 (220千円)			
合計 予算額 203, 558千円 (82, 106千円)			



## 【博物館法】

(博物館協議会)

第二十三条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

## 【千葉市立博物館設置条例】

(博物館協議会)

第3条 法第20条第1項[博物館法\(昭和26年法律第285号\)第23条第1項](#)の規定に基づき、千葉市立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、委員10人以内で組織する。

3 法第21条[博物館法第24条](#)の規定による委員の任命は、次に掲げる者のうちから行うものとする。

- (1) 学校教育の関係者
- (2) 社会教育の関係者
- (3) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (4) 学識経験のある者

4 委員の任期は、2年とし、委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(平成24条例23・令和5条例11・一部改正)

千葉市立博物館協議会委員 名簿

任期：令和5年1月9日～令和7年1月8日

委員名	現職など	専門分野
こじま みちひろ 小島 道裕	元国立歴史民俗博物館教授（歴史研究系）	日本中近世史 博物館教育
ひろた なおゆき 広田 直行	日本大学生産工学部建築工学科教授	コミュニティ施設計画 公共施設再編計画
すずき かずひこ 鈴木 一彦	千葉大学講師	博物館学 博物館経営
こだま りえこ 小玉 理恵子	千葉市立都賀小学校校長	学校教育
しまだて りこ 島立 理子	千葉県立中央博物館企画調整課長	民俗学 博物館地域連携

令和6年3月現在